



働き方改革とは (PART-3)

県南教育事務所長
戸祭 勝典

これまで、2回にわたって働き方改革をお送りしてきましたが、“追伸”として、PART-3 をお届けしたいと思います。

高度経済成長期には、長時間労働をいとわず休日返上でがむしゃらに働く社員を「モーレツ社員」と呼び、バブル経済期には「24 時間戦えますか～ (※)」というCMソングが流行するなど、会社のために身を粉にして働くサラリーマンの姿が取り上げられた時期がありました。(※ 働く時間が 24 時間という意味ではないそうです。)

時代は流れて、このような働き方は、過度なストレスや健康問題を引き起こす可能性があることを指摘され、ワークライフバランスを確保した働き方にシフトしてきました。

今を生きる先生方は、定められた勤務時間の中で、与えられた事務処理やミッションを完遂しなければならない勤務環境に置かれています。

このような環境下で、先生方に求められる力は、長時間勤務に耐えられる強靱な体力や精神力ではなく、勤務時間の中で業務を完遂するためのマネジメント力になります。

例えば、7時間 45 分の勤務時間の中で、校務分掌や成績処理等をいかに効率的に処理するか、自由になる授業改善や教材研究の時間をどのように生み出していくかなどについて、組織力を最大限に発揮し、学校全体で具体的かつ効果的な手段を実践することが大切です。加えて、先生方一人ひとりが、勤務時間内で業務をコーディネートするという意識を持ち、不断に実践していくことが大切なのではないかと思います。

時間をかけて終わらせる力ではなく、与えられた時間内で所期の目的を達成できる力が評価される時代が到来しています。

「働き方改革」の文章が、予定回数では終わらず、“追伸”まで出しましたが、ひとまず、これにて閉じさせていただきます。



総務課



旅費支払日の変更について



常陽銀行において、令和 6 年 10 月から給与の送金を除き、公金の送金手数料が有料となります。茨城県としては送金手数料を抑えるためにも令和 6 年 10 月から旅費の支払いは原則、給与支給日に給与と合わせて各職員の口座へ送金する予定です。

事務職員の皆様におかれましては、旅費支給までの手続き期間が短縮されることから、これまで以上に提出する請求書等に不備がないか注意を払っていただけますようお願いいたします。また、提出した請求書等に不備の指摘がありましたら、速やかに対応をお願いいたします。

管内全ての小・中・義務教育学校で学校が再開されました。

長期休業明けのスタートはいかがでしたでしょうか。長期休業明けの学校経営や学校運営、全ての教育活動が円滑に進むよう、今回は第1回管理職研修会の研修テーマ【探究的な学びの展開】と【不祥事ゼロの実現】について各校で取り組まれている好事例をそれぞれ紹介いたします。

《好事例》

【探究的な学びの展開】

○動画「授業名人」の活用

茨城県教育情報ネットワークには、探究的な学びを展開するための参考となる授業動画がたくさん掲載されています。探究的な学びが学校全体で展開できるよう個人研修や校内研修に活用していただきたいと存じます。

【不祥事ゼロの実現】

○コンプライアンス研修と並行して取り組む人権教育研修

学校にかかわる全教職員は、人権教育の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」を常に念頭に置いて教育活動に当たることが必要不可欠です。相手をリスペクトする思いが「不祥事ゼロの実現」につながります。

他校の好事例を参考とし、今後の教育活動に取り組むことで、児童生徒の学校生活がよりよいものとなります。なお、好事例は他にも多数あり、それらを下記の場所に掲載しましたので、ぜひ、ご覧いただき「全ての子どもたちが笑顔で過ごせる学校づくり」の一助としてください。

《掲載場所》

茨城県教育情報ネットワーク／ポータルシステム／文書共有／14_県南教育事務所／第1回管理職研修会

市町村教育委員会紹介



取手市教育委員会

取手市は令和2年8月3日、茨城県で初となる「気候非常事態宣言」を発出し、地球温暖化防止や気候変動への適応策等の取組を推進しています。

その取組の一環として、未来を担う子どもたちが持続可能（サステナブル）な未来をつくるための知恵や価値観を育む、取手市「サステナブル学習プロジェクト」を令和4年度から実施しています。

取手市「サステナブル学習プロジェクト」 とりでおんだんかマスター2024

取手市「サステナブル学習プロジェクト」は、大学や企業と連携しながら、「とりでおんだんかマスター2024」というプログラムに沿って実施されます。3年目となる令和6年度は、対象校を12校（小学校8校、中学校4校）に広げ、令和7年度より全20校で実施する予定となっています。

プログラムの流れ



取手西小 脱炭素チャレンジカップで環境大臣賞を受賞

このプロジェクトの活動を通じて、取手西小学校4年生が「脱炭素チャレンジカップ2024（ジュニア・キッズ部門）」の最優秀賞に当たる環境大臣賞を受賞しました。

脱炭素チャレンジ広場に苗木を植樹

子どもたちは、活動を通じて生まれた脱炭素アイデアを実行するため、校内に「脱炭素チャレンジ広場」をつくり、スギ47本（花粉をほば出さない品種）、モモ5本、リンゴ4本の苗木を植樹しました。苗木は、茨城県県南農林事務所と取手市水とみどりの課から提供されました。今後、脱炭素チャレンジ広場で給食残渣肥料の活用や遊具等を利用した発電などを行うとのことです。



関連するSDGs 17の目標

4 質の高い教育をみんなに

13 気候変動に具体的な対策を

17 パートナースhipで目標を達成しよう